

学校における

食物アレルギー対応マニュアル

【3訂】

- 学校給食における食物アレルギー対応フローチャート
- 給食実施の流れ
- 学校給食のない学校における食物アレルギー対応フローチャート
- 学校給食以外で配慮が必要となる場合
- 食物アレルギー・アナフィラキシー緊急時対応マニュアル
- 事故発生時(アナフィラキシー)の教職員緊急対応マニュアル
- 様式編

平成28年7月

埼玉県教育局県立学校部保健体育課

学校給食における食物アレルギー対応フローチャート

《全体編》

単独校調理場の設置校

共同調理場の受配校

把握・指導表
の提出要請

- アレルギー疾患のある児童生徒の把握・保護者に提出の要請
※〔「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」^{注1)}の提出を求める〕
- ① 入学時（就学時健診等で申し出を促す。管理指導表の提出を要請）
- ② 進級時（年1回 提出を要請）
- ③ 転入等時（転入や新規発症したケースの把握。管理指導表の提出要請）

注1：資料1参照

個別面談

- 保護者と個別面談を実施する。
※〔参加者例：保護者・校長（管理職）・栄養教諭等・養護教諭・学級担任〕

プランの作成

- 個別面談を受けて、個別取組プラン^{注2)}を作成する。

注2：資料2参照

対応実施の
決定

校長は、対応実施の決定を行う。

校長は、共同調理場長に対応の依頼をする。

共同調理場長は、対応実施の決定を行う。

対応委員会
の設置と
開催

- 「食物アレルギー対応委員会」（仮称）を開催し、対応方法等を検討・決定する。
※〔構成者例：校長（管理職）・共同調理場長・栄養教諭等・養護教諭・学級担任・給食担当教諭等・可能であれば教育委員会担当者・主治医・学校医〕

必要に応じ、教育委員会へ報告

対応内容の
把握

- 教育委員会は、「食物アレルギー対応委員会」の報告を受けた場合には、内容を把握し、環境の整備や指導を行う。

最終調整と
情報の共有

- 校長は、決定した内容を対象者ごとに取組プランに記載し「アレルギー疾患取組報告会」や職員会議等で全教職員へ周知徹底する。同時に保護者へも内容を通知し、連携を図る。

対応の実施

- 学校給食における食物アレルギー対応を実施する。
※保護者の同意を得た上でエピペンを処方されている児童生徒の情報を消防機関に提供しておくなど、関係機関との連携を図る。

評価・見直し
・個別指導

- 定期的に（年1回）、対応方法等の評価・検討を行う。
進級時等（引き続き対応が必要な場合は、管理指導表の提出を要請）

給食実施のながれ

○調理方式や、栄養教諭等の配置状況により、対応は異なります。
 ○実施にあたっては、校内での連携した指導体制を整備し、保護者や主治医との連携を図ります。
 ○対象となる児童生徒の症状に応じて、安全を確保できることを確認した上で実施してください。

献立作成

- ア) アレルゲンとなる食品が、対象児童生徒のすべての料理に入らないようにする。
- イ) 施設設備や人的に無理がないようにする。
- ウ) 作業工程や動線が複雑にならないようにする。
- エ) 調味料や加工食品の原材料を調査する。（製造業者が通告なく変更する場合もある。）

配布用
献立表作成

- ア) アレルゲンとなる食品がわかる表示をする。（サラダ→卵サラダ、オムレツ→チーズ入りオムレツ等）
- イ) 記入もれや間違いがないよう複数の関係者が確認する。
- ウ) 全体への配布前に、担任や保護者に配布する。

発注

- ア) 事前に可能な限りアレルゲン情報を把握する。調味料や加工食品は、業者にアレルギー表示やコンタミネーション（混入）など、アレルゲンに関する情報を確認する。

検収

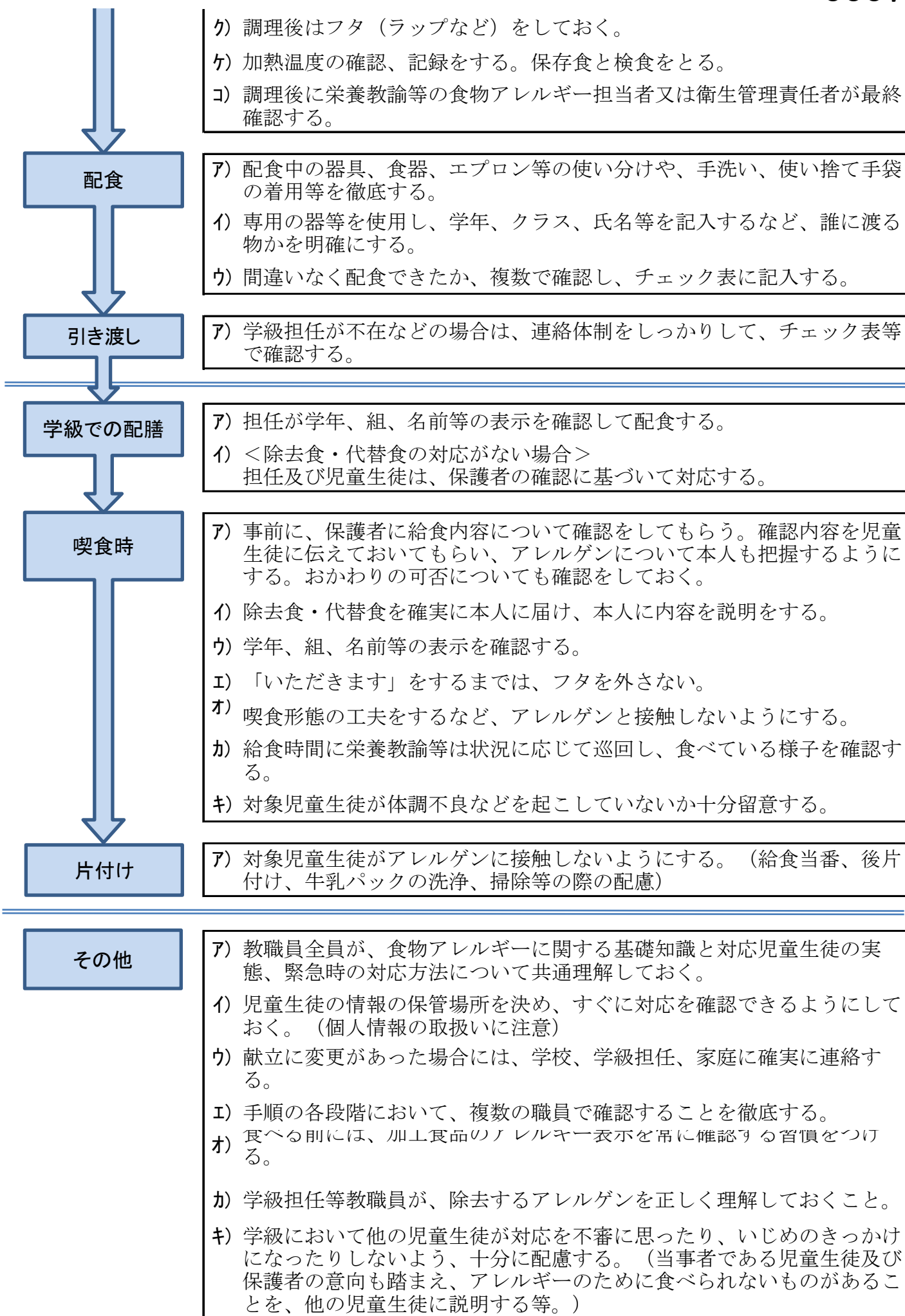
- ア) 納品されたものが、発注した物であるか、確実に検収する。調味料や加工食品の場合、製造者、商品名、原材料（製造業者が通告なく変更する場合もある。）
- イ) 共同調理場の受配校において、デザート等が納入業者から直接納入される場合は、受配校の検収責任者が検収し確認する。
- ウ) 除去対象のものが含まれている場合は、速やかに栄養教諭等の食物アレルギー担当者又は衛生管理責任者に連絡する。

作業工程
の確認

- ア) 調理指示書、作業工程表、作業動線図を作成し、綿密な打合せをする。
 - ☆ 調理指示書：使用する食材、器具、食器、調理手順、取り分けるタイミング等
 - ☆ 作業工程表：担当者、作業手順、取り分けるタイミング、エプロン等の使い分け、使い捨て手袋の使用、ふたの使用等
 - ☆ 作業動線図：作業場所、動線、器具等を明確に分離する。

調理

- ア) 調理担当者を明確にして、コンタミネーションが起らないようにする。
- イ) 調理場や衣類の清潔管理。
- ウ) 手洗いや、使い捨て手袋の適切な使用を徹底する。
- エ) 複数の対応食を調理する場合は、取り分ける鍋やおたまなどを変えたり、器の形状を変えるなどする。
- オ) 常に対象児童生徒の名前と対応内容（「除去食」または「代替食」、原因物質等）がわかるように表示する。
- カ) 取り分けたり、食材を加えたりする際には、複数の人で確認する。
- キ) 時間差をつけるなどして、同時に同じ場所で複数のアレルギー対応食を調理しないようにする。



学校給食のない学校における食物アレルギー対応フローチャート

把握・指導表の提出要請

- アレルギー疾患のある児童生徒の把握をする
- 学校において対応が必要かどうか保護者と相談する。
- 学校での対応が必要な保護者に「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」^{注1)}の提出を求める
 - ① 入学時（管理指導表の提出を要請）
 - ② 進級時（年1回 提出を要請）
 - ③ 転入等時（転入や新規発症したケースの把握。管理指導表の提出要請）



注1：資料1参照

個別面談

- 保護者と個別面談を実施する。
- ※〔参加者例：保護者・校長（管理職）・栄養教諭等・保健主事・養護教諭・学級担任〕



プランの作成

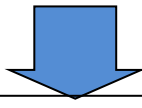
- 個別面談を受けて、個別取組プラン^{注2)}を作成する。

注2：資料2参照



対応実施の決定

校長は、対応実施の決定を行う



対応職員会の設置と開催

- 「食物アレルギー対応職員協議会」（仮称）を開催し、対応方法等を検討・決定する。
- ※〔構成者例：校長（管理職）・保健主事・養護教諭・学級担任・関係教職員・必要に応じて教育委員会担当者・主治医・学校医〕



最終調整と情報の共有

- 校長は、決定した内容を対象者ごとに取組プランに記載し「アレルギー疾患取組報告会」や職員会議等で全教職員へ周知徹底する。同時に保護者へも内容を通知し、連携を図る。



対応の実施

- 食物アレルギー対応を実施する。
- ※保護者の同意を得た上でエピペンを処方されている児童生徒の情報を消防機関に提供しておくなど、関係機関との連携を図る。



評価・見直し・個別指導

- 定期的に（年1回）、対応方法等の評価・検討を行う。
- 進級時等（引き続き対応が必要な場合は、管理指導表の提出を要請）

学校給食以外で配慮が必要となる場合

配慮が必要な活動例

- ・調理実習(授業、クラブ活動)
(食物アレルギー対応調理実習計画表(資料8参照)を作成する)
- ・宿泊を伴う行事(修学旅行、自然教室など)
- ・宿泊や食事を伴う大会・コンクール等
- ・体験学習(そば打ち体験、乳搾り等)、工場見学
- ・教材(小麦粘土、食品が入っていた袋、牛乳パックを使った工作、植物栽培、豆まきなど)
- ・遠足(おやつや弁当の交換をしないよう注意)
- ・給食当番や後片付け、掃除当番
- ・運動(食物依存性運動誘発アナフィラキシー)
(原因食物を食べた後、4時間以内の運動を控えさせる)
- ・災害時の炊き出し、災害用備蓄食料

※一部の重症者では、湯気や揮発したアレルギー、粉塵中のアレルギーでも反応することがある。

※※食物アレルギーへの対応が必要になるのは、学校給食だけではないことに留意。

配慮の内容(共通)

- ・保護者・主治医との連絡
- ・対応を事前に決定
- ・教職員の共通理解
「学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)」(資料1)、「食物アレルギー個別取組プラン」(資料2参照)などによって、児童生徒の状況を把握し、全教職員が共通理解しておく
- ・アレルギー食品への接触防止策
例:座席の配置(給食その他)
担任の近くにす。机を少し離す等。
子供同士が食べながら接触すること(はね、とびなど)を防ぐ。
- ・他の児童生徒の理解
本人及び保護者の意向も踏まえて、アレルギーのために食べられないものがあることを説明し、理解を得る。食べものを交換しないよう注意する。

(以下、特に宿泊を伴う場合など)

- ・どこまでの対応が必要で、どこまでの対応が可能なのかを事前に確認
例:宿泊施設と食事内容等の確認、そば殻枕など寝具の確認
- ・持参薬の有無や管理方法、万一発症した場合の対応を事前に保護者・本人・学校医と十分話し合う
- ・搬送する医療機関などを事前に調査
- ・参加する教職員の共通理解

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

異変に気がいたら子供から目を離さない

迷ったらエピペン[®]を打つ！

助けを呼び、人を集める

ただちに119番通報

下の症状から重症度を判定し、速やかに行動する

全身の
症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

呼吸器
の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
- 数回の軽い咳



©埼玉県

消化器
の症状

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返して吐き続ける
- 中等度のお腹の痛み
- 1～2回のおう吐
- 1～2回の下痢
- 軽いお腹の痛み(がまんできる)
- 吐き気

目・口・
鼻・顔面
の症状

- 顔全体の腫れ
- まぶたの腫れ
- 目のかゆみ、充血
- 口の中の違和感、唇の腫れ
- くしゃみ、鼻水、鼻づまり

皮膚の
症状

- 強いかゆみ
- 全身に広がるじんま疹
- 全身が真っ赤
- 軽度のかゆみ
- 数個のじんま疹
- 部分的な赤み

上記の症状が
1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①エピペン[®]を使用
- ②救急車を要請(119番通報)
→保護者に連絡
- ③その場で安静を保つ
→歩かせない
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる
- ⑥仰向けにして足を上げる

緊急

- ①内服薬を飲ませ、
エピペン[®]を準備
- ②速やかに医療機関を受診
(救急車の要請も考慮)
- ③急速に進行する場合
→「緊急」の対応
- ④座位にして会話をしながら
観察すると、急変に対する
判断・対応がしやすい

受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②「急速に進行する」又は
「悪化が予想される」場合
→「受診」「緊急」の対応
- ③少なくとも1時間は観察
完全によくなくなるまで目を
離さない

注意

事故発生時 (アナフィラキシー) の教職員緊急対応マニュアル

事故発生・重症

- ・ 事故状況の把握と事故者の確認
- ・ 事故者の安全確保・協力要請
- ・ 応急処置 (エピペン・AED) の準備 (必要に応じて実施)
- ・ 緊急通報 (119)

事故発生の連絡

近くの教職員・児童生徒など

教育委員会

学校 (職員室)

校長

不在時は副校長・教頭、教務・学年主任又は他の教職員

養護教諭

教職員

学校医又は主治医

保護者

救急車の要請

【救急車を要請するとき】 (概要を説明できる教職員が電話することが望ましい)

- ① 「救急です。」
「食物アレルギーによるアナフィラキシー発症 児童生徒の搬送依頼です。」
- ② 状態・経過を簡潔に説明する (質問に答えられなくても、到着時には答えられるよう準備)
 - ・ だれが・いつ・どこで ○歳 性別 食事後、〇〇分経過後 ○〇学校
 - ・ どこが おなか、全身の皮膚になど
 - ・ どのような状態 全身じんましん、ぜん息の様な呼吸音がある、嘔吐など
 - ・ かかりつけ医 ○〇〇病院
 - ・ エピペン 処方の有無、接種の有無・時刻 (〇〇時〇〇分)
- ③ 連絡者の所在地 学校の住所等
- ④ 救急車が来るまでの手当方法を聞く。
- ⑤ 搬送医療機関が決まっていたら伝える。

【救急車を要請したら】

- ① 救急隊員からの電話に対応できるようにする。
- ② 児童生徒の保険証の写し、財布、エピペンなどを持参。使用済みエピペンも持参、又は救急隊員へ。

医療機関を受診

- ◆ 息苦しさ(呼吸困難)、のどがしめつけられる感じなどの症状があらわれたら、直ちにエピペンを接種。(「発症時の対応の流れ」を参照。)
(アドレナリンの効果持続時間は15~20分のため、医療機関への搬送を急ぐ。)
- ◆ AEDについては、必要がある時以外は作動しないため、迷うことなく使用すること。
- ◆ 事故の対応については、必ず複数の人間で当たるようにすること。

食物アレルギー対応マニュアル〔様式編〕

資料1 学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)

資料2 主治医の先生へ
学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)の作成についてのお願い

資料3 食物アレルギー個別取組プラン(兼アレルギー緊急時個別対応票)

資料4 アナフィラキシー緊急時対応経過記録票(例)

資料5 アレルギー医療機関情報リスト(例)

資料6 食物アレルギー対応献立表(例)

資料7 食物アレルギー対応作業工程表(例)【牛乳除去】

資料8 食物アレルギー対応作業動線図(例)【牛乳除去】

資料9 食物アレルギー対応調理実習計画書(例)

※「資料3」～「資料6」及び「資料9」は、「学校の管理下における食物アレルギーへの対応 調査研究報告書」(平成23年3月(独)日本スポーツ振興センター)から転載・改変

「資料7」・「資料8」は「学校給食調理従事者研修マニュアル」(平成24年3月 文部科学省)から転載

※「資料2」以下は、あくまでも参考例であり、児童生徒の症状や各学校の実情等に応じて適切に対応することが望ましい。

名前 _____ 男・女 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日生 (_____ 歳) _____ 学校 _____ 年 _____ 組 提出日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

病型・治療		学校生活上の留意点		<div style="background-color: #f8d7da; padding: 5px;">★保護者 電話： _____</div> <div style="background-color: #f8d7da; padding: 5px;">★連絡医療機関 医療機関名： _____</div> <div style="padding: 5px;">電話： _____</div>	
気管支ぜん息 (あり・なし)	A. 重症度分類 (発作型) 1. 間欠型 2. 軽症持続型 3. 中等症持続型 4. 重症持続型	C. 急性発作治療薬 1. ベータ刺激薬吸入 2. ベータ刺激薬内服	A. 運動 (体育・部活動等) 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 3. 強い運動は不可		【緊急時連絡先】 記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 医師名 _____ (印) 医療機関名 _____
	B-1. 長期管理薬 (吸入薬) 1. ステロイド吸入薬 2. 長時間作用性吸入ベータ刺激薬 3. 吸入抗アレルギー薬 (「インターール®」) 4. その他 (_____)	D. 急性発作時の対応 (自由記載)	B. 動物との接触やホコリ等の舞う環境での活動 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定 3. 動物へのアレルギーが強いため不可 動物名 (_____)		
	B-2. 長期管理薬 (内服薬・貼付薬) 1. テオフィリン徐放製剤 2. ロイコトリエン受容体拮抗薬 3. ベータ刺激内服薬・貼付薬 4. その他 (_____)		C. 宿泊を伴う校外活動 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定		
	D. その他の配慮・管理事項 (自由記載)				
アトピー性皮膚炎 (あり・なし)	病型・治療		学校生活上の留意点		記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 医師名 _____ (印) 医療機関名 _____
	A. 重症度のめやす (厚生労働科学研究班) 1. 軽症：面積に関わらず、軽度の皮疹のみみられる。 2. 中等症：強い炎症を伴う皮疹が体表面積の10%未満にみられる。 3. 重症：強い炎症を伴う皮疹が体表面積の10%以上、30%未満にみられる。 4. 最重症：強い炎症を伴う皮疹が体表面積の30%以上にみられる。 <small>*軽度の皮疹：軽度の紅斑、乾燥、落屑主体の病変 *強い炎症を伴う皮疹：紅斑、丘疹、びらん、浸潤、苔癬化などを伴う病変</small>		A. プール指導及び長時間の紫外線下での活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定	C. 発汗後 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定 3. (学校施設で可能な場合) 夏季シャワー浴	
	B-1. 常用する外用薬 1. ステロイド軟膏 2. タクロリムス軟膏 (「プロトピック®」) 3. 保湿剤 4. その他 (_____)	B-2. 常用する内服薬 1. 抗ヒスタミン薬 2. その他 (_____)	C. 食物アレルギーの合併 1. あり 2. なし	D. その他の配慮・管理事項 (自由記載)	
	B. 動物との接触 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定 3. 動物へのアレルギーが強いため不可 動物名 (_____)				
アレルギー性結膜炎 (あり・なし)	病型・治療		学校生活上の留意点		記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 医師名 _____ (印) 医療機関名 _____
	A. 病型 1. 通年性アレルギー性結膜炎 2. 季節性アレルギー性結膜炎 (花粉症) 3. 春季カタル 4. アトピー性角結膜炎 5. その他 (_____)		A. プール指導 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定 3. プールへの入水不可		
	B. 治療 1. 抗アレルギー点眼薬 2. ステロイド点眼薬 3. 免疫抑制点眼薬 4. その他 (_____)		B. 屋外活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定		
	C. その他の配慮・管理事項 (自由記載)				

名前 _____ 男・女 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日生（ _____ 歳） 学校 _____ 年 _____ 組 提出日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

病型・治療		学校生活上の留意点	<div style="background-color: #ffcccc; padding: 5px;"> <p>★保護者 電話： _____</p> <p>★連絡医療機関 医療機関名： _____</p> <p>電話： _____</p> </div>
A. 食物アレルギー病型（食物アレルギーありの場合のみ記載） 1. 即時型 2. 口腔アレルギー症候群 3. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー		A. 給食 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定	
B. アナフィラキシー病型（アナフィラキシーの既往ありの場合のみ記載） 1. 食物（原因 _____） 2. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー 3. 運動誘発アナフィラキシー 4. 昆虫 5. 医薬品 6. その他（ _____）		B. 食物・食材を扱う授業・活動 1. 配慮不要 2. 保護者と相談し決定	
C. 原因食物・診断根拠 該当する食品の番号に○をし、かつ《 》内に診断根拠を記載 1. 鶏卵 《 》 2. 牛乳・乳製品 《 》 3. 小麦 《 》 4. ソバ 《 》 5. ビーナッツ 《 》 6. 種実類・木の実類 《 》（ _____） 7. 甲殻類（エビ・カニ）《 》 8. 果物類 《 》（ _____） 9. 魚類 《 》（ _____） 10. 肉類 《 》（ _____） 11. その他1 《 》（ _____） 12. その他2 《 》（ _____）		C. 運動（体育・部活動等） 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定	
D. 緊急時に備えた処方薬 1. 内服薬（抗ヒスタミン薬、ステロイド薬） 2. アドレナリン自己注射薬（「エピペン®」） 3. その他（ _____）		D. 宿泊を伴う校外活動 1. 配慮不要 2. 食事やイベントの際に配慮が必要	
E. その他の配慮・管理事項（自由記載）		E. その他の配慮・管理事項（自由記載）	
[診断根拠] 該当するもの全てを《 》内に記載 ① 明らかな症状の既往 ② 食物負荷試験陽性 ③ IgE抗体等検査結果陽性			
		記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
		医師名 _____ (印)	
		医療機関名 _____	
病型・治療		学校生活上の留意点	記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
A. 病型 1. 通年性アレルギー性鼻炎 2. 季節性アレルギー性鼻炎（花粉症） 主な症状の時期； 春、夏、秋、冬		A. 屋外活動 1. 管理不要 2. 保護者と相談し決定	医師名 _____ (印)
B. 治療 1. 抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬（内服） 2. 鼻噴霧用ステロイド薬 3. その他（ _____）		B. その他の配慮・管理事項（自由記載）	医療機関名 _____

●学校における日常の取り組み及び緊急時の対応に活用するため、本表に記載された内容を教職員全員で共有することに同意しますか。

1. 同意する
2. 同意しない

保護者署名： _____

主治医の先生へ

学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）の 作成についてのお願い

学校では、食物アレルギー疾患を有し、学校での対応が必要な児童生徒の保護者に対して「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」を配布し、原因食物の除去を指導している主治医に記載していただいた「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」を学校へ提出していただくよう求めています。

必要に応じて、保護者を通じて学校からより詳細な情報提供や指導助言をお願いすることもありますので、御協力くださいますようお願いいたします。

作成にあたっての留意点について

- 1 現在の状況及び今後1年間を通じて予想される状況を記載します。
- 2 食物アレルギーは、成長とともに寛解することがあるので、毎年対応の見直しが必要です。また、症状等に変化が無い場合であっても、配慮が必要な間は、毎年新しいものを学校へ提出することになっています。また、対応に変化があった場合は、年度内でも管理指導表にてお知らせください。
- 3 記載については、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」（財団法人 日本学校保健会）を参考にしてください。
参考 URL: <http://www.gakkohoken.jp/modules/books/index.php?fct=photo&p=51>
- 4 学校生活において、配慮や学校の対応が必要とする場合のみ作成するものです。
アレルギー検査が陽性でも、除去などの配慮が不要な食物については記入する必要はありません。
- 5 原因食物の除去を指導している主治医が記入してください。
判断に迷う場合や、より専門的な診療が必要な場合には、専門の医療機関を受診するよう紹介してください。
- 6 緊急連絡先医療機関については、「B.アナフィラキシー病型」や「D.緊急時に備えた処方薬 2.アドレナリン自己注射薬（エピペン®）」に○がついている場合には、必ず記載してください。緊急時の受入れができない場合には、専門の医療機関を紹介受診し、緊急時の対応について相談するよう保護者に指導してください。
- 7 食物アレルギー・アナフィラキシー病型について
過去にアナフィラキシーの既往がある場合には、左のアナフィラキシー欄の「あり」に○をつけてください。
アナフィラキシーとは「複数の臓器にわたり症状がみられた」場合を意味します。蕁麻疹だけが見られるものは含まれません。
- 8 診断書と同じ扱いになります。文書料は自費となり健康保険や子育て支援医療助成制度の対象外であり、料金は医療機関により異なります。

診断根拠（必須）

一般に食物アレルギーを血液検査だけで診断することはできません。実際に起きた症状と食物アレルギー負荷試験などの専門的な検査結果を組み合わせ、医師が総合的に診断します。したがって、学校生活管理指導表にはアレルギー検査のデータ等の記載は不要です。

食物の除去が必要な児童生徒であっても、その多くは除去品目数が数品目以内にとどまります。あまりに除去品目数が多い場合には、不必要な除去を行っている可能性が高いとも考えられます。除去品目数が多いと食物アレルギー対策が大変になるだけでなく、成長発達の著しい時期に栄養のバランスが偏ることにもなるので、そのような場合には「除去根拠」欄を参考に、保護者と相談しながら慎重に診断をしていくことが必要です。

① 明らかな症状の既往

過去に、原因食物の摂取により明らかなアレルギー症状が起きているので、診断根拠として高い位置付けになります。

ただし、鶏卵、牛乳、小麦、大豆などの主な原因食物は年齢を経るごとに耐性化（食べられるようになること）することが知られています。実際に乳幼児早期に発症する食物アレルギーの子供のおよそ9割は就学前に耐性化するので、直近の1～2年以上症状が出ていない場合には、“明らかな症状の既往”は診断根拠としての意味合いを失っている可能性もあります。主な原因食物に対するアレルギーがあって、耐性化の検証が行われていない場合には、既に食べられるようになっている可能性も十分に考えられます。

② 食物負荷試験陽性

食物負荷試験は、原因と考えられる食物を試験的に摂取して、それに伴う症状が現れるかどうかをみる試験です。この試験の結果は上記①に準じたものと考えられるため、診断根拠として高い位置付けになります。ただし、①の場合と同様に主な原因食物についての1年以上前の負荷試験の結果は信頼性が高いとは言えませんので、再度食べられるかどうか検討する必要があります。

また、アナフィラキシー症状を起こす危険性が高い場合や、直近の明らかな陽性症状、血液検査などの結果などによっては負荷試験の実施を省略して診断することもあります。

③ I gE 抗体などの検査陽性

鶏卵や牛乳などの主な原因食物に対する I gE 抗体値が高値の場合には、③だけを根拠に診断する場合があります。しかし、一般的には血液や皮膚の検査結果だけで、食物アレルギーを正しく診断することはできません。検査が陽性であっても、実際はその食品を食べられる子供が多いのも事実です。そのような場合には記載する必要はありません。

*学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（財団法人 日本学校保健会）参照

【埼玉県教育委員会】

(例)

食物アレルギー個別取組プラン (案 ・ 決定)
(兼 アレルギー緊急時個別対応票)

取組プラン (案) 検討日 平成 年 月 日
保護者説明・確認日 平成 年 月 日

平成 年度	年 組	番			
(ふりがな) 児童生徒名		性 別	<input type="checkbox"/> 男 子	<input type="checkbox"/> 女 子	
		生年月日	平成 年	月 日	
保護者氏名			続 柄		
住 所			電話番号		

緊急連絡先

連絡順位	氏 名	続柄等	電話番号	連絡先	特記事項
1				自宅・職場・携帯	
2					
3					

かかりつけ医の情報

医療機関名		診 療 科	
主 治 医 名			
ID (カルテ) 番号			
住 所		電話番号	

かかりつけ以外に搬送する医療機関がある場合

医療機関名		診 療 科	
主 治 医 名			
ID (カルテ) 番号			
住 所		電話番号	

食物アレルギー・アナフィラキシーの原因と具体的な症状

	診断根拠
	①明らかな症状の既往
	②食物不可試験陽性
	③IgE 抗体等検査結果陽性

アナフィラキシー発症の有無

<input type="checkbox"/> 有 (回数: 回 ・ 原因:)
<input type="checkbox"/> 無

緊急時の対応

内服薬			
注射薬	エピペン 0.15mg	エピペン 0.3mg	(※いずれかに○印)
その他			
練習用エピペン®トレーナーによる訓練の有無	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無	

(例)

家庭での食事・おやつ・外食等の対応方法（食物アレルギーの場合）

--

学校生活の中で、どのような配慮を希望しますか（給食・学校行事等）

--

学校給食における決定事項

詳細な献立表対応	
除去食対応	
給食（一部）停止	
その他	

その他 学校において配慮が必要な事項

	チェック欄	具体的な配慮と対応
食物・食材を扱う活動・授業		
運動		
宿泊を伴う活動		
持参薬		
エピペンの保管		
個人情報の管理		

その他 主治医から注意されていること 等

--

学校における日常の取組及び緊急時の対応に活用するため、記載された内容を、学校全職員、教育委員会、消防部局、医療機関で共有することに同意します。

保護者署名 _____

アナフィラキシー緊急時対応経過記録票(例)

児童生徒氏名 _____

生年月日 平成 年 月 日 () 歳

1. 誤食時間	平成 年 月 日 時 分									
2. 食べたもの										
3. 食べた量										
4. 処置	【処置】 ・口の中のものを取り除く ・うがいをする ・手を洗う ・触れた部位を洗い流す 【内服など】 薬の使用(内容) 時 分 【注射】 エピペンの使用 あり なし 時 分									
5. 症状	部位	重症度レベル					部位	重症度レベル		
	【皮膚】	1	部分的なじんましん、あかみ、かゆみ				【全身】	1	普段よりやや元気がない	
		2	広範囲のじんましん、あかみ、強いかゆみ					2	明らかに元気がない、立ってられない	
	【粘膜】	1	軽い唇や臉(まぶた)の腫れ					3	横になりたがる、ぐったり	
		2	明らかな唇や臉(まぶた)、顔面全体の腫れ					4	血圧低下、意識レベル低下~消失、失禁	
		3	飲み込み辛さ					【消化器】	1	軽い腹痛、単発の嘔吐
		4	声枯れ、声が出ない、のどが締め付けられる						2	明らかな腹痛、複数回の嘔吐・下痢
	【呼吸器】	1	鼻汁、鼻閉、単発の咳					3	強い腹痛、繰り返す嘔吐や下痢	
		2	時々繰り返す咳							
		3	強い吹き込み、声がれ、ぜん膈(ゼーゼー、ヒューヒュー)、呼吸困難							
	6. 症状経過	時間	症状	血圧 (mmHg)	脈拍 (回/分)	呼吸数 (回/分)		体温 ()	備考欄	
		:								
:										
:										
:										
:										
:										
:										
:										
:										
:										
7. 記録者名										
8. 医療機関	医療機関名	主治医名	電話番号	備考欄 (ID番号など)						

アレルギー医療機関情報リスト(例)

アレルギー対応の医療機関一覧

No	※ 医療機関名	所在地	電話番号	相談	検査			※ エピペンの処方	※※※ 緊急時対応
					一般血液検査	抗体検査	皮膚テスト		
1	〇〇病院	〇-〇-〇	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	
2	〇〇クリニック	〇-〇-〇	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇		〇				
3									

No欄に〇印のある医療機関：追加された医療機関または追加項目があった医療機関

※アンケート調査によりマップ掲載可能と回答があった医療機関(実施している機関で掲載されていない機関もあります)
 ※※小児食物アレルギー負荷検査：厚生労働大臣が定める施設基準に適合し、地方社会保険事務局長に届け出ている医療機関において、9歳未満の入院中の小児に対して実施する。
 ※※※緊急時対応(アナフィラキシーショックを起こした時の緊急時の対応、アドレナリン注射等の対応を含む)：児童施設・学校で事前に受診の方法等について相談しておくこと。また、緊急時には連絡を入れ、医師と相談後、受診すること。

救急医療機関(診療科目に小児科がある機関)一覧

医療機関名	所在地	電話番号
1 〇〇大学医学部附属病院	〇-〇-〇	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
2 〇〇病院	〇-〇-〇	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
3		
4		
5		

食物アレルギー対応献立表(例)
 学校給食献立表

〇〇市立〇〇小学校

日	曜日	献立名	使用する食品名			アレルギー (kcal) たんぱく質 (g)
			赤(あか)の食品	緑(みどり)の食品	黄(き)の食品	
			おもに体をつくる食品	おもに体の調子を整える食品	おもにエネルギーのもとになる食品	
1	月	むぎごはん	ぎゅうにゅう			670
		牛乳(ぎゅうにゅう)	ぶたにく なまあげ だいず	にんじん ねぶかねぎ には	テンメンジャン こいくちしょうゆ	
		マーボーじゃがいも	ふたにく	にんじん たまねぎ キャベツ たけのこ	さげ しお トウバンジャン	
		春巻き	くきわかめ	キャベツ	こいくちしょうゆ チキンエキス	
		くきわかめとやしのあえもの	コッペパン	もやし きゅうり	ポークエキス しお	
2	火	牛乳(ぎゅうにゅう)	ぎゅうにゅう			654
		白米のクリーム煮	ぎゅうにゅう	ほくさい たまねぎ にんじん しめじ	チキンブイヨン しお	
		サケのムニエル	なまクリーム	グリーンピース	しろこしよ	
		やさいサラダ	サケ	ブロッコリー カリアフラワー ホールコーン	しお しろこしよ	
		ひじきごはん	とりにく	にんじん グリンピース ほしいだけ	こいくちしょうゆ みりん しお	
3	水	牛乳(ぎゅうにゅう)	ぎゅうにゅう			665
		とうふのみそ煮	とろふ	かぼちや たまねぎ たけのこ はねぎ	にぼし(だし)	
		さわらのたつたあげ	さわら	キャベツ きゅうり	こいくちしょうゆ みりん さげ	
		きゅうりのあっさりあえ	さくら		す うすくちしょうゆ	
		むぎごはん	ぎゅうにゅう			
牛乳(ぎゅうにゅう)	しらすぼし わかめ					
てづくりかりかけ(しらすわかめ・ごま)	どうふ むぎみそ おから	たまねぎ にんじん はねぎ	にぼし(だし)			
じゃがいものみそ煮	たら たまご	にがうり	こいくちしょうゆ			
スナックゴーヤ&アイソジュ	チーズ			650		
しよくパン	イカ ベーコン チーズ	トマト たまねぎ なす にんじん	チキンブイヨン ケチャップ			
スライスチーズ	ぎゅうにゅう	しめじ パセリ	こいくちしょうゆ しろワイン			
牛乳(ぎゅうにゅう)	レツドキドニー	パプリカ キャベツ きゅうり	す しお しろこしよ			
なすとトマトのスパゲティ	みかんジュース(100%)	みかんジュース				
5	金	イタリアンサラダ				24.6
		みかんジュース(100%)				

【お願い】 ※ 食物アレルギー等で対応の必要な場合は、毎日献立表を確認してください。

※ 食物アレルギー等で加工食品の成分表や原材料のg数などの詳しい資料が必要な方は、学校へお申し出ください。

食物アレルギー対応作業工程表 (例) 【牛乳除去】

平成 年 月 日 ()

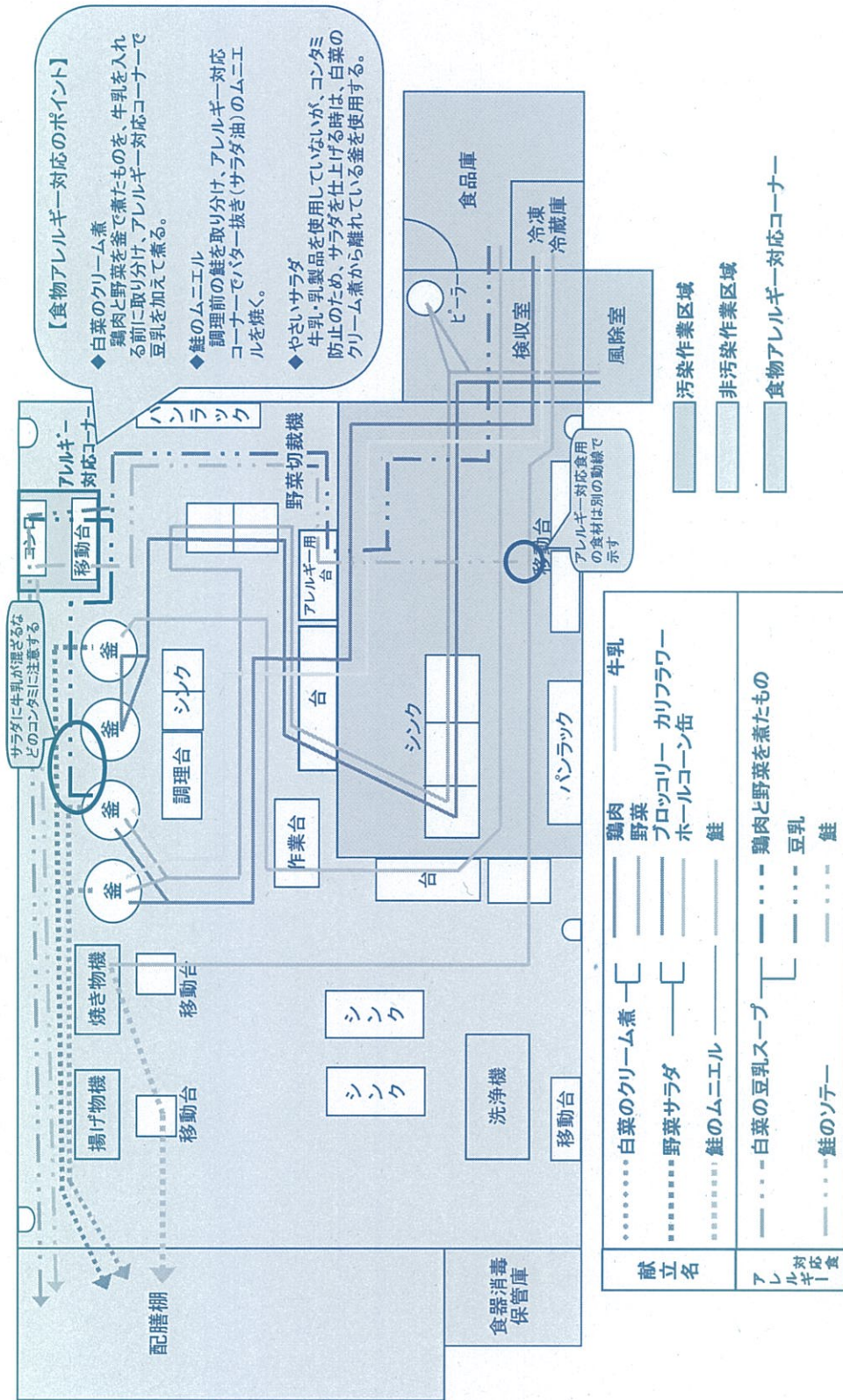
汚染作業

非汚染作業

献立名	担当者	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00
白菜の クリーム煮	A	検収	ルウ作り(牛乳)	鶏肉炒める・煮込み・調味	鶏肉入れ	鶏肉入れ	鶏肉入れ	鶏肉入れ	鶏肉入れ	清掃作業
	B	<下処理> 白菜、人参、玉ねぎ じゃがいも エプロン交換 手洗い 靴履き替え	エプロン交換 手洗い 靴履き替え	サラダへの コンタミ注意 白菜、人参、玉ねぎ、じゃがいも切り	エプロン 手洗い	エプロン 手洗い	エプロン 手洗い	エプロン 手洗い	エプロン 手洗い	エプロン 手洗い
野菜サラダ	C	ブロッコリー カリフラワー	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り	ブロッコリー切り カリフラワー切り
	D	その他 アレルギー用クリーム煮 アレルギー用ムニエル	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封	コーン缶切り ドレッシング開封
ムニエル	E	鮭下味	バターを溶かす	鉄板準備	鉄板準備	鉄板準備	鉄板準備	鉄板準備	鉄板準備	鉄板準備
	F	牛乳数え	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす	小麦粉をまぶす

作業工程表を作成するに当たっては、献立名、担当者名、タイムスケジュール、衛生管理点が記載されていること。

食物アレルギー対応作業動線図 (例) 【牛乳除去】



食物アレルギー対応調理実習計画書（例）

家庭科主任⇒保健主事⇒栄養教諭等

学年・組	年 組 名 指導者 (クラブ)
実施日時	平成 年 月 日 () 校時
料理名 ○をつける	※教育課程上の位置 (家庭科・生活科・総合・学活・クラブ・その他)
グループ別 調理の場合	① ⑤ ② ⑥
班ごとの 料理名	③ ⑦ ④ ⑧

食材の購入 【給食室にお願いするもの】

品 名	数 量	単 価	合計金額	保 存	備 考

【担任が一括購入するもの】

品 名	数 量	単 価	合計金額	保 存	備 考

【やむを得ず、家庭から持ち込むもの】

品 名	数 量	単 価	合計金額	保 存	備 考

調理実習の実施上の留意点

提出は2週間前（食材発注の都合上、厳守）

- ① 計画書の必要事項（金額は未記入可）を記入して家庭科主任・保健主事のチェックを受ける。
- ② 栄養教諭等に計画書を見せ、食材購入の依頼を行うとともに衛生管理上のアドバイスを受ける。
（アレルギーについて・保存食材についても教えてもらう。）
- ③ アドバイスと下記のチェックリストをもとに実習を行い、終了後計画書を保健主事に提出する。

【計画段階】

チェック

食材の一括購入（家庭からの持ち込みは原則禁止）	
食材の冷凍庫保管（実施日・クラスを明記、家庭科室の冷凍庫へ）	

【調理段階】

チェック

児童の健康観察	
服装・手洗いの徹底	
調理用具・食器の殺菌（塩素消毒）	
刃物・火・ガス等の安全指導	

【後始末段階】

チェック

調理物の冷凍庫保管（実施日・クラスを明記、家庭科室の冷凍庫へ）	
調理器具・食器等の整理・収納	

※保健主事は必要に応じて管理職に相談する。実習日時は板書する。

保存食の採取・保存の方法

- 検体は2週間保存。期間が過ぎたら、担任が廃棄。
- 乾物（常温保存のもの）以外はすべて保存。
- チャックつきビニール袋に入れ、空気を抜いてチャック。
 - ☆ 一つの食材につき50g以上（野菜は洗浄前のもの）
 - ☆ クラスのものをさらに大きな袋に入れ、必要事項を記入
 - ☆ 調理物はすべての材料が入るように。（50g）
 - ☆ 調理がグループ別の場合、それぞれを保存。

【引用・参照資料】

- ・学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン
（平成 20 年 3 月 公益財団法人日本学校保健会）
- ・学校の管理下における食物アレルギーへの対応調査研究報告書
（平成 23 年 3 月 独立行政法人日本スポーツ振興センター）
- ・学校給食調理従事者研修マニュアル
（平成 24 年 3 月 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課）

※ マニュアル中、「学校給食における食物アレルギー対応フローチャート」は、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」の掲載内容を改変。

【その他参考資料】

- ・厚生労働科学研究班による食物アレルギーの栄養指導の手引き 2011
（厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）
- ・厚生労働科学研究班による食物アレルギーの診療の手引き 2014
（厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業）
- ・食物アレルギーによるアナフィラキシー学校対応マニュアル 小中学校編
（平成 17 年 4 月 公益財団法人日本学校保健会）
- ・ぜん息予防のためのよくわかる食物アレルギーの基礎知識 2012 年 改訂版
（独立行政法人環境再生保全機構）
- ・学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン要約版
（平成 27 年 2 月 文部科学省、公益財団法人日本学校保健会）
- ・学校におけるアレルギー疾患対応資料 DVD
（平成 27 年 3 月 文部科学省、公益財団法人日本学校保健会）
- ・学校給食における食物アレルギー対応指針
（平成 27 年 3 月 文部科学省）

※注記

緊急の場合も想定したわかりやすさ、簡潔さを確保するため、「エピペン®」（アドレナリン自己注射薬）の呼称を用いている。